令和 5 年度　学校評価総括表　　学校名　生駒市立生駒南中学校　　所属長名　眞 井 英 司　　印

Ⅰ 学校教育目標　人権尊重の精神をもった次代の担い手となる、豊かな人間性と創造性をそなえた生徒の育成

Ⅱ 前年度に残された課題	Ⅲ 本年度の重点課題	Ⅳ 来年度に残された課題
○地域との連携をより一層充実したものにする。地域学校協働活動をさらに進展させる。 ○学校評価で低位にあった項目について次年度具体的な案を立て取り組む必要がある。 ○生徒の自己肯定感・有用感の高まる仕掛けづくりが必要。より具体案を模索する必要がある。 ○人権意識・道徳心の向上を図る必要がある。体験学習等を通して直接心を揺さぶる取組をすべての教育活動で考える必要がある。 ○職員の資質向上のための研修会が必要（評価評定・ICT活用・生徒理解）・・・Jプロの活用 ○働き方改革の推進を継続実施。校務の偏り等の解消に向けさらに検証実施する。	①わかる授業の構築 ②地域・保護者に信頼される学校づくりの推進 ③豊かな人間性（心）の育成 ④積極的・開発的な生徒指導の推進 ⑤その他の課題 ・清掃活動の充実 ・健康作り	○地域とのつながりを深め、地域学校協働活動をさらに進展させる。 ○保幼小中学校の連携を推進させる。 ○学校が安心できる場所となるための具体的な取り組みが必要である。 ○学校評価で低位にあった項目について次年度具体的な案を立て取り組む必要がある。 ○生徒の自己肯定感・有用感の向上に向け、より具体的な施策が必要である。 ○人権意識・道徳心の向上ため、体験学習を取り入れ、ゲストティーチャーを活用する必要がある。 ○学力向上に向けて調査結果を基に具体的な改善を進めることが重要である。 ○職員の資質向上のための研修会が必要（授業力・評価評定・ICT活用・生徒理解） ○働き方改革をさらに進める必要がある。校務の偏り等の解消に向けさらに検証実施する。

評価項目（重点課題番号）	[2]具体的達成目標と評価指標	評定	[3]自己評価	[4]外部アンケートの分析		評定	[5]自己評価		[6]学校関係者評価
	具体的に、何を、いつまでに、どの水準まで、数値化		中間評価	児童生徒アンケート	保護者アンケート		最終評価（成果と課題）	課題の改善策等	評価者人数
	公表日		評価日 12月6日	実施日 12月1日	実施日 12月21日		評価日 2月14日		評価日 3月14日
			公表日 1月9日	公表日 1月9日	公表日 1月9日		公表日 3月26日		公表日 3月26日
	公表方法 ☐ ホームページ ☐ 文書配布 ☐ 説明会実施 ☐ その他		公表方法 ☑ ホームページ ☐ 文書配布 ☐ 説明会実施 ☐ その他	公表方法 ☑ ホームページ ☐ 文書配布 ☐ 説明会実施 ☑ その他	公表方法 ☑ ホームページ ☐ 文書配布 ☐ 説明会実施 ☑ その他		公表方法 ☑ホームページ ☐文書配布 ☐説明会実施 ☐ その他		公表方法 ☑ ホームページ ☐ 文書配布 ☐ 説明会実施 ☐ その他
①わかる授業の構築	○アンケートや授業評価をもとに、学習環境を整備し、授業に集中できる環境づくりに取り組む。【取組指標】 ○教員間での授業規律の共通理解、生徒への学習ルールの確認を行う。【取組指標】 ○アンケートで授業に集中できる環境が整っていると答える生徒の割合80%以上を目指す。【成果指標】 ○授業で積極的にICT機器を利用する。【取組指標】 ○アンケートで授業で積極的にICT機器を利用したと答える教員の割合を80%以上を目指す。【成果指標】 ○主体的・対話的で深い学びの工夫と改善。授業で生徒が認めてもらい、安心感や自己有用感を育てる指導をおこなう。【取組指標】 ○生徒にアンケート調査を実施し、自己有用感のもてる生徒の割合70%以上を目指す。【成果指標】		○教員間での授業規律の確認、生徒への学習ルールの確認を年度始めに行った。 ○11月13日～17日の期間中に「授業研究週間」を設け、授業力・指導力向上を図る予定である。 ○全国学力学習状況調査の結果を踏まえ、授業で積極的なICT機器の利用、活用をすることができていることが分かったが、教科ごとの特性により、ICT機器の使用頻度に関しては差がある。 ○夏休み期間中、前半（7月27日・28日）と後半（8月21日・22日）の合計4日学習会を開催した。 ○授業環境について、ICT機器の利用に関してのアンケートを実施する予定である。 ○生徒を対象とした学習に関するアンケートを実施する予定である。	○生徒を対象とした学習に関するアンケートを令和6年1月に実施し、「授業中私語をなくし、集中して授業を受けることができましたか」の項目において、1年74%、2年77%、3年89%、全体平均81%の生徒が肯定的な回答をしている。 ○令和5年度全国学力・学習状況調査において、「自己有用感」の項目に関して「自分にはよいところがある」に87.7%の生徒が肯定的な回答をしており、これは、前年度を17.1%上回っている。また、学校評価アンケートでは、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」に対して1年が95%、2年が98%、3年が94%、全体で96%の生徒が肯定的な回答をしている。	○保護者を対象とした学校評価アンケートにおいて、「お子様は、大型テレビやコンピュータを使った授業はわかりやすいと言っていますか」に対して、全体の92%が肯定的な回答をしている。「お子様は、学校生活が充実していると言っていますか」の項目では全体の93%が肯定的な回答をしている。		○学習環境に関して、全体の81%の生徒が肯定的な回答をしていることにより、【成果目標】の80%を達成したと言える。今後も教員、生徒を対象とした授業規律、学習ルールの確認を行い、この数値を維持しつつ、90%以上の生徒が肯定的な回答をするように授業規律、学習ルールの確認や取り組みをしていかなければならない。 ○ICTの利用に関しての教員を対象としたアンケートにおいて、95%の教員が肯定的な回答をしていることから、【成果目標】の80%を達成したと言える。また、生徒を対象とした「大型テレビやコンピュータを使った授業はわかりやすいですか」という質問に全体の95%の生徒が肯定的な回答をしている。このことから、ICT機器の使用が生徒の学習の理解につながっていることが分かる。引き続き、学習の中でICT機器を活用し、分かる授業の構築に努めていく必要がある。 ○「自己有用感」の醸成に関して、アンケートの中で「自分にはよいところがある」と肯定的に回答した生徒の割合が昨年度よりも上昇しているが、割合を見た場合、90%を下回っているので、引き続き、「自分にはよいところがある」と思える生徒の割合が90%以上になるような取り組みを継続していく必要がある。 ○「安心感」を与える取り組みに、全体で90%以上の肯定的な回答が得られているので、引き続き生徒に寄り添う指導を行っていかなければならない。	○教員間、生徒間で授業規律を再度確認、徹底し、授業に集中できる環境づくりに取り組んでいく。 ○教科の特性に応じたより効果的なICT機器の利用方法についての研修が必要なのではないか。 ○安心できる授業づくりのために、来年度も引き続き研究授業や研究授業週間などの研修を設定しなければならない。 ○教員が生徒に対して「安心感」を与えることができていると言えるが、生徒自身の「自己有用感」が低いことが課題と言える。授業や学校での生活の中で、「自己有用感」を高めていく取り組みをする必要がある。	○全国学力・学習状況調査で学力が低い結果が出ているのは問題である。学力向上のための取組に地域も協力する。 ○基礎学力の向上に向けて日々の授業を大切にしてほしい。 ○家庭教育の教育力が弱くなっているように感じる。家庭と連携し、家庭教育力を高める必要性がある。 ○授業でタブレットをよく活用している教科に差がある。どの教科についても有効的な活用をしてほしい。 ○タブレットばかりでなく、実際に鉛筆で紙に文字を書く活動もなくさないでほしい。
②地域・保護者に信頼される学校づくりの推進	○コミュニティスクールの推進 ・花いっぱい運動、除草作業、地域クリーンアップ活動を実施する。【取組指標】 ○地域との協働活動を推進 ・全校生徒による地域クリーンアップ活動を行う。【取組指標】 ・地域に貢献できていると感じる生徒の割合90%以上目指す【成果指標】 ・地域や保護者に協力を求め、生徒・学校職員・地域・保護者が協働で取り組める活動にする。【取組指標】 ・学校の行事に地域の方々が参加できる、開かれた学校を目指す。【取組指標】 ○保幼小中学校の連携推進 ・本校3年生の生徒と南こども園の園児の交流活動を実施する。【取組指標】		○5月19日に第1回花いっぱい運動を実施し、多数の部活動の生徒（74名）の参加、ならびに2名の地域の方に参加いただいた。 ○6月16日に第1回除草作業を実施し、多数の部活動の生徒（108名）の参加、ならびに17名の地域と保護者の方に参加いただいた。 ○第2回除草作業は雨天のため中止したが、当日2名の地域の方が雨（中止）にもかかわらず作業していただいた。週明けの月曜日にも、2名の地域の方が除草作業をしていただいた。 ○3年生の生徒（50名）と南こども園との交流活動を9月15日実施することができた。	○生徒を対象としたアンケートで、「地域クリーンアップ活動の意義を理解し、意欲的に取り組むことができましたか」の問いに対し、95%が肯定的な回答をしている。 ○「学校の外で、地域の方にしっかり挨拶ができていますか。」の問いに対し、90%が肯定的な回答をしている。 ○令和5年度全国学力・学習状況調査において、「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した生徒の割合は61.2%であり、昨年度から18.1%向上している。	○保護者を対象としたアンケートで「お子さまは、地域の方に挨拶ができていますか」の問いに対し、88%が肯定的な回答をしている。		○コミュニティスクールの推進に関しては、計画通り年3回の学校運営協議会を生駒南小学校と合同で実施し、本校の教育方針や教育活動について熟議することができた。 ○地域学校協働活動として、花いっぱい運動を2回、除草作業を1回、地域クリーンアップ活動を生駒南小学校6年生と合同で1回実施し、多くの地域の方々や保護者の方々と協働で取り組むことができた。 ○保幼小中学校の連携推進については、9月15日（金）に中学校3年生と南こども園の園児の3年ぶりに交流活動を実施することができた。	○来年度も本年度を踏襲することにより、年3回の学校運営協議会を開催し、生駒南小中学校合同のコミュニティスクールの基盤を固め、施設一体型小中学校開校に向け取り組みたい。 ○感染症対策を講じて、計画通りに地域学校協働活動を実施する。また、生徒だけでなく、教職員も地域学校協働活動の意義を理解し、地域の方々と協働で活動できるようにする。	○南小中学校区は地域とのつながりが深く、いろいろな協力体制がある。各校の取組の中で学校と地域がより良い関係を築いていけるように様々な面で気をつけてほしい。 ○花いっぱい運動や除草作業の活動を生徒と地域の方々との交流が深まる工夫が必要である。 ○地域自治会と連携して行ったクリーンアップ活動はよかった。今後も継続するとよい。
③豊かな人間性（心）の育成	○いのちの時間に、出前授業や体験学習を積極的に活用する。【取組指標】 ○アンケートで、出前授業や体験学習は、有意義であったという肯定意見90%以上を目指す。【成果指標】 ○道徳の授業で年間2回学年ローテーション授業を実践し、授業研修を行い教師の授業力向上をめざす。【取組指標】 ○あらゆる教科領域を通して、自己肯定感と自己有用感を高めながら、自分の考えを表現し、相手の意見を受けとめる技能を養う。【取組指標】 ○生徒へのアンケートで、道徳の授業や人権学習の中で、心の変化を感じ、他者の多様な考えに共感することができた生徒90%を目指す。【成果指標】		○いのちの時間に、出前授業や体験学習を適宜活用している。 ○道徳の授業を計画的に実践し、校内研修を実施中である。2学期1回、3学期1回の計2回のローテーション授業を実施中である。3年生においては、2学期に2回。 ○学級活動や学校行事などすべての教育活動を通して、互いの良さを認め合い、「なかま」づくりを育成できるよう声をかけている。 ○道徳の毎授業後の生徒への振り返りで、他者の多様な考えに共感することができたか確認している。 引き続き校内研修および授業の振り返りを実施し、授業力改善に生かしていく。	○「道徳の授業で、考えを深めることができた」という肯定意見は、96%であった。 ○「道徳の授業で、クラスメイトの意見や考えに共感することができた」という肯定意見は、96%で、達成することができた。	○こどもが道徳の授業で、考えを深めることができた、もしくはどちらかといえばできたと答えた保護者の割合は92%であった。		○道徳の授業で、心の変化を感じ、他者の多様な考えに共感することができた生徒は、全体の96%が肯定的な回答をしており、【成果指標】90%を達成したと言える。引き続き心の変化や他者を認め、多様な考えに共感できる授業づくりを行っていく。 ○道徳の授業を計画的に実践することができた。また、道徳の授業で、年間2回学年ローテーション授業を実践し、授業研修を行い教師の授業力向上を目指す取り組みができた。 ○学級活動や学校行事などすべての教育活動を通して、互いの良さを認め合い、「なかま」づくりを育成できるよう今後も声かけを行っていく。 ○1年生は、外部から福祉の方を招いて、障害者理解を深めた。車いす・アイマスク体験を行い、自分に何ができるのかを考えた。また、日常生活から言葉の使い方等に気をつけ、いのちの発表会で『いじめ』をテーマに発表する班もあった。 ○2年生は、国語や社会の授業等を利用して、小さな親切や税の作文などに取り組んだ。来年の修学旅行に向けて、沖縄の平和学習を行い、平和・戦争・沖縄県について知識を深めた。 ○3年生は、修学旅行で自分のことを50%、相手のことを50%で考えて、言動に注意し、視野を広げて過ごすことができた。その他の行事や学級活動では、このテーマを活かし学校生活を過ごすことができた。 ○生徒・保護者・教師を対象とした人権講演会を開催し、人と食をつないだ人権、食で人を笑顔にする活動について学ぶことができた。	○道徳の授業参観や校内研究（毎学期）を行って、道徳の授業の質を向上させる。 ○あらゆる教科領域を通して、自己肯定感を高めながら、自分の考えや意見を表現し、相手の意見を受けとめる技能を養う取り組みをする。 ○学級活動や学校行事を通して、互いの良さを認め合い、「なかま」づくりを育成できる取り組みをする。	○子どもたちが豊かな人間性をはぐくむためには、教育する教員に心のゆとりが必要である。 ○現在では、教師といった、指導する立場にある人にもカウンセリングマインドのスキルが求められている。 ○義務教育の9年間を通じて児童生徒の豊かな人間性の育成が図れるようにしてほしい。 ○学校では多様性に対する配慮がなされていると感じている。
④積極的・開発的な生徒指導の推進	○学校や家庭、地域の方々に対して、挨拶をすることの大切さを全校集会や朝の会、学活などを通じて、全教職員で声をかけ、意識づける。【取組指標】 ○生徒へのアンケートで、学校の中でしっかり挨拶ができているという肯定意見90%以上を目指す。【成果指標】 ○積極的、開発的な生徒指導（あいさつ、時間厳守、服装、言葉つかい）、相談（見守り、声かけ）、また生徒の成長を促す指導、相談を行う。【取組指標】 ○ふれあいタイムで、生徒に寄り添うスタンスで進め、生徒の想いを聞き、両者（担任、生徒）にとって、有意義な時間にして、信頼関係を深いものにしていく。【取組指標】 ○生徒へのアンケートで、「先生は相談にのってくれる」「認めてくれる」等の肯定意見90%以上を目指す。【成果指標】 ○保護者へのアンケートで「お子様は相談にのってくれる」「認めてくれる」等の肯定意見80%以上を目指す。【成果指標 ○スクールカウンセラーによる校内生徒指導部会や研修を通じて、教職員の聞く力、受け止める力、アプローチする力を高め、さまざまな状況に対して、情報を共有し、組織で対応する。【取組指標】 ○学校のルール（生徒心得）を守り、学校生活を送る上で基本的な習慣を身につけさせる。問題行動、問題事象に対して、全教職員で連携をとり、初期の対応、指導を丁寧に行う。【取組指標】 ○タブレットやSNSの使用について、学活や集会を通じて、生徒に考えさせる。【取組指標】 ○生徒へのアンケートで、学校のルールを守っているという肯定意見90%以上を目指す。【成果指標】 ○生徒へのアンケートで、「いじめはどんな理由があってもいけない」という意見100%を目指す。【成果指標】 ○教職員へのアンケート（報告、連絡、相談、確認の徹底）での肯定意見90%以上を目指す。【成果指標】		○教職員で、生徒を見守り、朝の登校、昼休み、下校指導などで、声をかけている。 ○全校集会、朝の会、帰りの会、学活などを通して、場に応じた挨拶などを生徒に指導している。 ○「生徒心得」を意識させ、基本的な習慣を身につけた上で、より充実した学校生活を目指すように声をかけている。 ○学校生活の様々な場面で、教師が生徒に積極的に関わり、信頼関係を構築中である。 ○生徒指導講演会では、鑑別所や犯罪について話を聞き、今後も生徒の規範意識の醸成につながるような指導をしている。 ○担任とのふれあいタイムだけではなく、常日頃から、生徒の声に耳を傾け、話を聞くようにしている。 ○ふれあいタイムのアンケートを行い、その内容を通して、生徒からの話を聞く。時間と場所を確保し、相談になるように、生徒の気持ちに寄り添うスタンスで取り組む。 ○いじめアンケートは、毎学期行う。 ○いじめ事象に関わっては、聞き取りを丁寧に行い、初期対応の大切さを意識し、生徒の安全を確保するようにしている。 ○2・3学期にはSNSの使い方について、全校生徒対象にスマホ教室を実施する予定である。 ○問題行動や気になる様子、小さな変化があれば、生徒からの話を聞くようにし、信頼関係を築くようにしている。また、その内容を職員会議や生徒指導部会など、教職員の中で情報を共有し、生徒理解に努めている。	○「先生は相談にのってくれる」「認めてくれる」等の肯定意見は、98%で、達成している。 ○「いじめはどんな理由があってもいけない」という意見は、98%で、ほぼ達成している。 ○「学校のルールを守っている」という肯定意見は94%で、達成できている。 ○「自ら進んで、挨拶が出来ていますか」という肯定意見は90%で、達成できている。	○「先生への相談ができた」「よいところを伸ばしている」というアンケートでは、90%以上の保護者が肯定的な回答をしている。 ○いじめについてのアンケートでは、85%以上の保護者がいじめのない学校つくりをしていると回答している。 ○学校のルールを守ることのアンケートでは、85%以上の保護者が肯定的な回答をしている。		○「生徒心得」、学校のルールを守る、挨拶を行う、場に応じた行動や言葉遣いなど、生徒指導上での基本的な生徒の意識について、全教職員で指導した。生徒の規範意識の向上を図るため、特に場に応じた行動や言葉遣いについては、全教職員で声掛け、指導を行っていく必要がある。 ○積極的、開発的な生徒指導（あいさつ、時間厳守、服装、言葉つかい）について、今年度は、大きな事故、トラブルがなく、十分に機能した。 ○ふれあいタイム、相談（見守り、声かけ）について、対応、指導で不十分である部分は、再度時間を作って、生徒の話を聞くことで問題解決につ なげていく。全教職員で見守りを行い、相談を受け止める姿勢を持つ。 ○毎学期行ったいじめアンケートの結果を経て、生徒への事前指導、事後指導、アプローチなどを、より丁寧に行っていくことが必要である。さらに、常日頃から、生徒の様子を見守り、学活や朝の会、帰りの会等で学年、担任の思いを伝えることも必要である。 ○報告、連絡、相談、確認について、90%以上の教職員が肯定的に回答している。生徒の様子の変化に常に気付く意識を持ち、教職員間の連携、情報共有を確実に行うことが課題である。問題行動や生徒間のトラブルの初期対応についても、連携をとり、指導にあたる。 ○日頃からスマホ、SNSの使い方などについて指導している。3学期に、1、2年生対象にスマホ教室を行い、生徒の意識も高まった。 ○問題行動や気になる様子、小さな変化があれば、生徒からの話を聞くことに徹した。また、その内容を、その都度、学年を中心に情報共有を行い、職員会議や生徒指導部会など全体での生徒理解にも努めた。	○全校集会、朝の会、帰りの会、学活などを通して、学校のルールの在り方や、場に応じた行動や言葉遣い、挨拶について、継続的に指導していく。 ○積極的、開発的な生徒指導の推進（生徒心得、時間厳守、挨拶など）を全教職員が同じ方向で、生徒の成長を促す取組を継続的に行っていく。全校集会や講演会の在り方について、全教職員で統一し、適時声掛けを行う。 ○生徒の相談に対して、教職員が生徒に寄り添うスタンスで進め、生徒の想いを聞き、両者（担任、生徒）にとって、有意義な時間にしていくことが課題である。また、担任だけでなく、全教職員が一人一人に寄り添い、生徒がいつでも相談できる体制を作る。 ○来年度も、いじめアンケートを学期ごとに行い、いじめの芽に気づく環境を作り、普段から生徒の様子を丁寧に把握する。また情報共有を確実に丁寧に行う。 ○登校指導、休み時間、昼休みの見守り、下校指導など、生徒の見守りについて、浸透してきたが、さらなる生徒理解に努めるためにも、全職員で取り組むことが課題である。 ○問題行動に対して、教職員で連携をとり、初期の対応、指導を行うことができた。一人の教職員が抱えるのではなく、職員会議や生徒指導部会でも情報共有を行い、より丁寧な生徒指導へとつなげていく。 ○問題行動になる前段階での気づきを大切にしていくためにも、担任、学年担当、教科担当が意識をして、生徒の様子を確認して、情報共有を行う。	○不登校児童生徒に対する対応をしっかりとしていただき、より各種関係機関と連携を取って、居場所づくりを行っていただきたい。 ○いじめに対しての子どもたちへのアプローチを今後も行い、安心して学校生活を送れる取組と体制づくりをお願いしたい。 ○アンケート結果が昨年と比較して良い結果になっているのは、先生方の手厚い対応によるものと聞き、今後も継続して対応していただきたい。 ○保護者が子どもたちに「自分で考えて行動する力」を身につけてほしいと考えているのは意外だった。
⑤その他の課題	○すべての教職員が率先して清掃活動を行うと共に、委員会活動や学級の当番活動に責任をもって取り組ませ、美化意識の向上に努める。【取組指標】 ○清掃道具の点検を定期的に行い、校内環境の美化に努める。【取組指標】 ○清掃活動に積極的に取り組んでいるという教師・生徒の割合80%以上をめざす。【成果指標】 ○教科学習や部活動指導などを通し、心と体の健康に関心を持ち、生涯を通じて健康な生活を送ることができる基礎的な力を培う。【取組指標】 ○学校保健委員会の1月実施に向けて、関係機関と連携を取りながら準備を進める。【取組指標】 ○「積極的に体力づくり・健康づくりに努めた」生徒の肯定的意見80%以上をめざす。【成果指標】 ○教科学習や給食指導・委員会活動などを通して、「食」の大切さや楽しさ、マナーなどを意識させる。【取組指標】 ○手洗い・消毒・マスク着用・黙食など衛生的な習慣を徹底させる。【取組指標】 ○「給食は手洗い・消毒・黙食など、マナーを守って食べるようにしている」という肯定的意見90%以上をめざす。【成果指標】 ○給食配膳時のエプロン・三角巾の着用の徹底【取組指標】 ○給食配膳時のエプロン・三角巾着用率100%を目指す。【成果指標】 ○給食の残食が多いので、いのちの授業等を利用して食育の取り組みを進める。【取組指標】 ○各クラスの残食ゼロを目指す。【成果指標】		○通常清掃においては、時間に遅れることなく、早くから清掃場所に行き、清掃活動に取り組んでいる生徒が多い。 ○1学期の終わりに、生活委員会で清掃用具の点検、ワックスがけを行った。 ○保健体育の授業や体育大会の練習、部活動などを通して、体力向上の機会を確保できている。 ○給食前の手洗い・消毒はほぼ徹底できている。 ○給食配膳時のエプロン・三角巾の着用率は学年によって差があるので、全学年着用の徹底を目指していく。また、給食配膳時のマスク着用を徹底していく。 ○給食センターの方に来てもらい、2年生を対象に食育の話をしていただいた。	○日常の清掃に意欲的に取り組んでいますか。 肯定的回答　1年:89%　2年:88%　3年:96%　全体:91% ○給食では手洗い・消毒などの衛生面に配慮できていますか。 肯定的回答　1年:98%　2年:97%　3年:96%　全体:97% ○積極的に体力づくり・健康づくりに努めていますか。 肯定的回答　1年:74%　2年:71%　3年:80%　全体:75%	○学校は、清掃活動や環境美化に力を入れていると思いますか。 肯定的回答　1年:90%　2年:97%　3年:95%　全体:94% ○お子様は、積極的に体力づくり・健康づくりに取り組んでいますか。 肯定的回答　1年:69%　2年:75%　3年:74%　全体:73%		○日常の清掃活動においては、生徒・教師ともに意欲的に取り組むことで、校内の環境美化が維持されており、その取り組みは保護者にも評価されている。 ○生活委員会の生徒を中心に、教室のワックスがけ・清掃用具の点検を行った。 ○学校保健委員会を1月に実施した。 ○給食時の手洗い・消毒などの衛生的な生活習慣については、ほぼ達成することができた。 ○給食配膳時のエプロン・三角巾については全学年ほぼ着用することができている。 ○体力づくり・健康づくりについて、授業等で体力向上の機会は確保できているが、自ら進んで運動をするという習慣はあまりない。	○給食配膳時のエプロン・三角巾の着用を徹底。 ○給食の残食が多いので、いのちの授業等を利用して食育の取り組みができないか。また、今年度2年生で実施した、給食センターの方に来校してもらっての食育の話を継続して実施したい。 ○清掃用具の点検・交換・補充 ○体力づくり・健康づくりにおいて、さらなる運動の機会の確保が必要である。できないことができるようになること、みんなで一つのことを達成する楽しさを感じられるようなレクリエーションなどの取り組み。	○体力づくり・健康づくりにおいて、さらなる運動の機会の確保が必要である。 ○みんなで一つのことを達成する楽しさを感じられるようなレクリエーションなどの取り組みを行っていただきたい。